

上島の文芸

水曜会【弓削】

真四角に作りし柿を買ってみる

亀島 一美

後の月とていつまでもいつまでも

小林しぐれ

秋高し弾丸道路突っ走る

田坂 紫苑

濯ぎ物干して干柿もんでみる

田坂芙代子

お帰りと言書きて蜜柑のせ

中本砂恵子

退職の十月からの我が道を

中脇 幸造

掌に石榴ころがせ父偲ぶ

森本 恵子

生名短歌会【生名】

頭の中から足の先まで洗われて心ほのぼの湯に浸り
おり（デイサービス）

村上 宗子

妻と吾れ共に喜び子や孫の贈り物手に敬老の日よ

村上 司

秋祭り過疎なる島に太鼓ひびきだんじり囃し満月の宵

村上 昌子

気の合ひし女三人の秋の旅庄原のコスモス目ざしス
スキ野走る

渡辺スズ子

わが国の首相またまた代りたりわずかな期待持ちて
見る月

池本 滝子

風ありてコスモスの花ことごとく散らしゆきたり庭
寂々と

浜田伊勢子

祭り好きの夫逝きし後縁遠く太鼓の響き淋しく聞けり
卯年には自然災害多しと聞けど津波・豪雨に恐れ戦く
ミカン畑ひとときわ大きい水溜りイノシシ掘りしと証
人二人

池田 友幸

むつみ歌会【岩城】

神輿昇く少女らの声華やかに若さみなぎる額光れり

宮本佳世子

切り岸に萩のひとむらこぼれ咲く夕暮れの道一人歩めば

浪本 綾子

雨遠く日水遣れど人參の発芽未だし夕空仰ぐ

池田 繁雄

土生港の棧橋に立つ水銀灯鴉止まりて羽づくろひせる

森本 和佳

外つ国の青年笑顔で御輿昇く一日賑はふ岩城の祭り

白石 勇

誕生会笑みつつ食事する母を遠くの叔父に写メール
送らむ

高本 久子

保育所の二十回目の敬老会踊りの師匠花を添へたり

西本 優子

めぐりきてさるすべり咲く暑き夜父身罷りしあの日
思はる

池本 正子

名も知らぬ草の実ながめふと思ふスケッチせむと鉛
筆にぎる

高本 雅雄

魚島俳歌柳会【魚島】

恵比寿神社に神輿据え伊勢音頭高らかうたう秋祭かな
老妻が今年も牡蠣を打ちくれて好きなフライを食べ
る幸せ

三上 運

信じあう心とこころ忘れずに
その年になりて判りし父母の恩

大船 近義

道の辺の水仙手折り活けにけり
老いてよりふるさとの唄懐かしく

八幡 丸

喜寿過ぎてまだこれからと髪を染め
スパーで男やもめと誤解され

佐伯 真柳

お世辞でも若いといわれ気を良くし
騙される覚悟を決めてサブリかな

城山 登

凄雨足の台風紀州入り
台風過海岸道路大掃除

柳 小福

戦後食べ過ぎたる諸に食傷す
天高く泥鰌人気のいつまでか

松原 瑞峰

第26回国民文化祭・京都2011文芸祭 「与謝蕪村顕彰『俳句大会』」

●入選

迅雷に乗りて鬼面の母登場

弓削高校 一年

中村 優樹

雷神が瀬戸の架橋をかけめぐる

弓削高校 一年

村上 健

第26回国民文化祭・京都2011 「小町ろまん『短歌大会』」

●入選

新しい教科書つめこみペダルこぎ桜のかおり
に胸おどらせて

岩城中学校 一年 新川 陽葉

雨の日に泣いてる姉を見た犬が頬をなめては
なぐさめていた

弓削高校 一年 榎本美奈子

かみじま歴史探訪

シリーズ：史料が物語る郷土の歴史⑨

明治初年 大区小区制時代の村々



江戸時代の弓削・佐島・沖の島（魚島）は、今治藩、岩城・生名島は松山藩領でした。明治維新で廃藩置県に進み、明治六年に愛媛県が誕生します。廃藩置県後、明治十一年に「郡区町村編成法」が施行されるまでは、大区小区制が敷かれていました。その時代の県下の調査記録『地理図誌稿』（愛媛県立図書館蔵、明治七年ころ編輯）の「（九）伊予国越智郡第九大区、島」には、かみじま町の村々は、次のように記されています。

第一小区 上弓削村 下弓削村

第二小区 佐島村 魚島村

第三小区 生名村 岩城村

弓削島

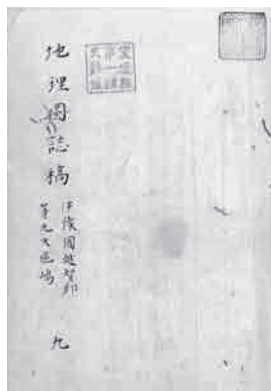
越智郡の東頭にあり、東は蒼（あお）い海にして、讃岐・備後の二国に渉り：周回三里、上弓削、下弓削二村に分かてり。

上弓削村

南は下弓削に連なり：土地は高燥にして瘦せ土なり、播種する所、稲米少なく、麦・大豆・小豆・蕃薯（りうきういも）の類多し、然れども村民の口腹に充てるのみ。田畑六三・六五町（田二・二二町畑六一・四町）歳収貢米九五・五石 戸数二八七戸 人員一三四四人（男六六〇、女六八四人）牛一四八頭 池三所 船七二艘（漁舟五三艘）：漁価二千円 物産 蕃薯九万貫 価金三五〇円 寺社願成寺、東泉寺

下弓削村

東南は山を負い、北は上弓削村に連なり、西は海を隔て佐島に對す。東西四町、南北三十六町、土地及び播種



『地理図誌稿』

する所、上弓削村に異ならず 田畑六九・九二町（田四・六七町 畑六五町）歳収貢米一二七・六石 戸数四五二戸 人員一九一三（男九一一、女一〇〇二人、内士族一人）牛一八頭 池三所 船一〇六艘（漁舟八十一艘）漁価凡そ三千円 物産 塩 九二四石 価金四一二円 蕃薯一三万二千貫 価金五二二円 寺社弓削神社、自性寺、総観寺、定光寺、西方寺、潮音寺

佐島村

田畑三八・四九町（田七・五五町 畑二八・九五町）歳収貢米六三・八石 戸数一四七戸 人員五九三人（男二八〇人、女三一三人）牛三八頭 池十一所 舟四一艘 物産 蕃薯二万六千二百貫 価一八三円 高井神島佐島の南：周回二十町：佐島に属せり 寺社佐島八幡神社

魚島村

：一孤島にして、沖の島と名づく、東西は山を負い、南北は海に臨めり：土地は高燥にして：水田無くして稲米を生ぜず。然れども春は鯛を多く網して産業をなす。故をもつて魚島の名有り。歳収貢米二九・二石 人員七八五人（男三七七人、女四〇八人）牛三八頭 舟四五艘、網して得る漁価凡そ五千円 物産 蕃薯二万三千貫 価一六六円 篠塚伊賀守墓一社の側に苔むしたる五輪塔有り、伊賀守世田城より落ちて、此の島に渡りて身を終う。此の事『太平記』に詳（つまびら）かなり 寺社魚島八幡神社、道福寺

生名村

：土地は高燥にして：水田稀にして稲米に乏（と）ばし、播種する所、麦・大豆・小豆・蕃薯等有り、其の外、塩田有りて塩を産せり。田畑五五・三二町（田一五・四六町 畑四一・一三町）歳収貢米七・一石 戸数二三六戸 人員二二六八人（男六五〇人、女六一八人）牛一〇〇頭 船一九六艘（漁舟一艘）物産 塩一三三〇〇苞（一苞五斗）価三〇七〇円 蕃薯 二万貫 寺社生名八幡神社、正福寺

岩城村

：周回三里二九町二三間：土地及び播種する所、生名島に同じ 田畑一五三・四六町（田四五・三四町 畑一〇・七九町）歳収貢米三一四・九石 戸数七四〇戸 人員三四〇二人（男一六八一人、女一

七二一人）牛二〇頭 池二十八所 小川三流 船二二三艘（漁舟八八艘、一歳得る所の魚蝦の価、凡そ千円）物産 塩一万二千苞 価二八二〇円 綿三〇〇本（一本十二貫）価千五百円 蕃薯一四万貫 価八四〇円 寺社岩城八幡神社、西部八幡神社、長法寺、宝蔵寺、祥雲寺、円満寺、浄光寺、太平寺 以上が『地理図誌稿』の概要です。「佐島の南」とされた高井神島は、魚島ではなく佐島に属されています。

明治維新でにわかに大区小区制が敷かれ、戸長（小区の長）も任命制でした。それで反発も強く、何回か編制替えがありました。『岩城村誌』（下巻、現代編）には、「第四大区第二小区：岩城村」という明治八年の文書も紹介されています。結局、明治十一年に「固有ノ習慣ニ依ルニ如（シ）カズ」と郡区町村編成法が敷かれました。

『地理図誌稿』は、明治五年の陸軍省の布達（「全国地理図誌編輯」）を受けての編纂でした。「土地高燥：」の島々には、池も多く（生名と魚島のは欠落）、育牛・漁業・製塩業も進んでいたようです。ただ、多くの船舶の中には、日本列島を縦横に活躍していた千石船やその乗組員については記述されてはいません。海外への漂流船員についても。



※先日、町の島々（津波島等）の名称の起こりを知りたい、とのお便りをいただきました。

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授 上島町文化財保護審議会顧問 村上 貢 稿